



## 2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発行部数等	詳細内容
平成 29 年度	夢ロードデッキ定期清掃会（4月16日）	大人10人	水辺荘との協同で夢ロード親水階段部分使用時の安全確保のため、藻など付着物の除去、清掃作業※。デッキ部分両岸の清掃活動。北仲公園愛護会との協同で北仲通北第一公園及び第二公園に続くプロムナードの清掃活動。海岸通りカヤック同好会との協同で、カヤックを使用した水面のプラスチックごみを回収。水辺荘主催のMegaSUP ミニクルーズに協力参加。カヤック体験会を実施。「運河パレード」、「よみがえれ運河、横浜縦断カーフェスティバル」に参加。水生生物観察、野鳥観察など実施。ソーシャルアクション「7月7日7時7分水辺で乾杯※」を実施。  ※「7月7日7時7分水辺で乾杯★」…国土交通省が主導し官民協働による水辺の新たな価値創造を行う「ミズベリングプロジェクト」の具体的アクションのひとつとして、全国の水辺で毎年7月7日7時7分に乾杯を行い、水辺に親しみ、知り、水辺の価値や脅威を考えるきっかけとするソーシャルアクション。2019年は、全国255か所で乾杯が行われました。  ( <a href="https://mizbedekanpai.mizbering.jp/">https://mizbedekanpai.mizbering.jp/</a> )
	夢ロードデッキ定期清掃会（5月21日）	大人9人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（6月18日）	大人5人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（7月16日）	大人10人 子ども1人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（8月20日）	大人7人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（9月17日）	大人6人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（10月28日）	大人4人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（11月19日）	大人11人 子ども2人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（12月17日）	大人4人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（1月21日）	大人11人 子ども2人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（2月18日）	大人11人	
夢ロードデッキ定期清掃会（3月18日）	大人11人		
平成 30 年度	夢ロードデッキ定期清掃会（4月22日）	大人8人	平成29年度と同活動他、3月、資源循環局「ありがとう！ヨコハマクリーンアップ」キャンペーン」に登録、参加。
	夢ロードデッキ定期清掃会（5月20日）	大人8人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（6月17日）	大人11人 子ども1人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（7月22日）	大人9人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（9月23日）	大人6人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（10月20日）	大人11人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（11月18日）	大人10人 子ども1人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（12月16日）	大人11人 子ども2人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（1月20日）	大人6人	
夢ロードデッキ定期清掃会（3月17日）	大人6人		

令和元年度	夢ロードデッキ定期清掃会（4月21日）	大人 11 人 子ども 1 人	平成 29 年度と同活動他、7 月、11 月に YSCC. と共同で清掃会を実施。
	夢ロードデッキ定期清掃会（5月19日）	大人 6 人 子ども 1 人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（6月16日）	大人 14 人 子ども 3 人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（7月21日）	大人 10 人 子ども 30 人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（9月22日）	大人 14 人 子ども 1 人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（10月20日）	大人 19 子ども 2 人	
	夢ロードデッキ定期清掃会（11月17日）	大人 13 人 子ども 9 人	

※定期清掃で收拾したゴミの量：毎回おおよそ、30 ㍻ゴミ袋 3~4 袋

（台風後の清掃時は、親水施設に流れ着いた有機物のゴミが、30 ㍻ゴミ袋約 20 袋もありました。）

### 3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	北仲通北第1公園及びプロムナードの清掃活動	UR海岸通4丁目市街地住宅自治会及び北仲通北公園愛護会との協働により、定期的に北仲通北第1公園及びプロムナードの清掃活動を実施しています。
学校との関わり		
他の市民団体との関わり	ヨコハマ運河パレード ヨコハマ運河チャレンジ 参加	NPO 法人 HamaBridge 濱橋会を中心に、運河から「防災」「水上交通」「地域間連携」を考えることを目的として計7回実施されているイベント「ヨコハマ運河チャレンジ(旧ヨコハマ運河パレード)」に、当会メンバーが大岡川の駅運営委員会や海岸通カヤック同好会として参加。パレードの盛り上げや、広報に貢献しています。
企業等との関わり	大岡川・中村川水上交通 社会実験協力	ヨコハマ運河チャレンジの一環で株式会社東京ベイガードが行った水上交通の社会実験に、メンバー(代表 丹羽)が運航スタッフとして協力しました。
行政との関わり	神奈川県補助対象事業への認定	神奈川県横浜川崎治水事務所から、「建設ともしび運動事業」による清掃用具等の補助をいただいています。

	横浜市総務局総務部管理課、新市庁舎整備担当	横浜市主催の新市庁舎低層部の市民に開かれた「広場」や「水辺空間」等について考えるワークショップ「新市庁舎にみんなで「ひろば」をつくる会議（平成 28 年度）」に参加。着工後も、工事進捗に応じて、市担当者様よりご連絡を頂き、「水辺の賑わい創出」をイメージしながら、活動しています。
その他、環境以外の分野との関わり	Y.S.C.C. 生徒による活動への参加	幼稚園児から社会人まで、家族的な雰囲気の中で、活動するスポーツクラブ（特定非営利活動法人）である、Y.S.C.C.（Yokohama Sports&Culture Club）と連携し、所属する10代の生徒達にも清掃活動に参加していただき、清掃活用による地域貢献や、都市生活とゴミ・水質問題、都市河川での生物生息環境を実際に見て感じてもらい、環境問題への関心を高めるきっかけを提供しています。

#### 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

かねてより、大岡川を中心に、カヤックやSUP（「Stand Up Paddleboard（スタンドアップパドルボード）」の略称。）等により都市の水辺の魅力づくりを行う活動をしていた市民団体（一般社団法人水辺荘等）が、夢ロードでもSUP等の着岸に利用していました。そのうち、そうした活動を行える環境をただ利用するだけでなく、自分たちでも整え、より多くの人に使ってもらえる場所にし、都市河川の魅力づくりや水辺環境への関心を生むことを目指し、当該団体メンバーや共鳴した仲間数人の有志が集まりました。2014年1月から、月1回の清掃活動を始めました。SNSを利用し、川でのごみの状況や、見つけた生物等のレポートを発信してきたこと、海の環境を学ぶ市民大学のメンバーやY.S.C.C.等との出会いや誰でも1回から参加可能なしくみ等により、共感する仲間が増え、一般市民も含む、毎月様々な方が、活動に参加して下さるようになりました。

#### 5 今までの活動

##### 活動の目標・ねらいに対する成果

北仲地区の水辺に親しめる貴重な親水空間である夢ロードデッキを使いこなすことで、街のにぎわいや魅力創造に貢献することが目的です。

当初数名から始めた草の根の活動ですが、SNS等での発信や、環境やまちづくりに関するイベントとの積極的な連携・参加により、個人・団体問わず、共鳴してくれる仲間が増えています。当団体の正規会員は10名強ではあるものの、定期清掃等への参加人数は、延べ100名に及びます。固定的なメンバーでの活動ではなく、広く参加を受け入れ、毎回様々な方が参加して下さることは、より多くの方に、都市河川の現状や環境への関心を広げる活動になってきていると考えています。

この活動を継続することにより、この活動を通して、水辺や環境を我が事のように思う人が増える社会を目指しています。

##### 生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

（1 ページ「生物多様性特別賞について」に事例を記載しています。）

## 6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

来年（令和2年）の6月には、夢ロードの目の前に、横浜市役所が移転してきます。夢ロードにおける水辺の積極的な利活用は、北仲通南地区を中心とした地域の新しい魅力づくりに繋がるとともに、環境への理解にも繋がります。市役所移転を機に市の取組とも積極的に連携しながら、より多くの市民の方に、都市河川環境の魅力向上と理解・啓発に繋がる活動を行えればと考えています。

また、今後は清掃活動だけでなく、より多くの方に楽しみながら参加していただき、コミュニティの形成にも繋げていけるよう、交流イベントを行うほか、他団体とのコラボレーション企画、携帯するプランター「プランタパブリカ」による公共空間緑化等自分たちなりの社会貢献への積極的な提案など、団体メンバーが受け身や習慣ではなく、能動的に会に参加し、自ら企画できる組織づくりを進めたいと考えています。

## 7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

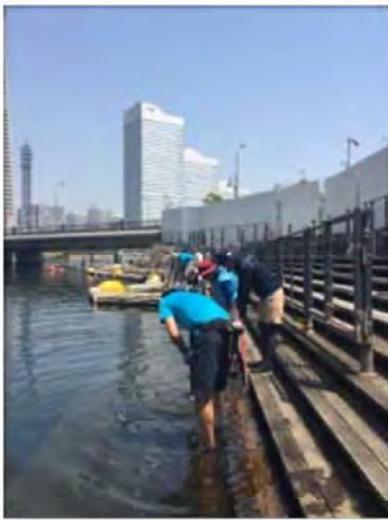
※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

私たちは、都市の水辺環境というテーマを持ちながらも、環境問題だけでなく、都市の魅力づくりや、まちづくり、水辺を介したコミュニティづくりを目指して活動しています。これにより、視野を広く保つことができ、実際に様々な団体との連携を可能にしたり、楽しみながら無理なく続けられ、様々な場所から来た、様々な世代が参加する活動に成長してきています。様々なアプローチから広く水辺環境への関心のすそ野を広げ、環境問題を自分事として捉える市民を少しでも多くしていくことに、我々は貢献していると考えます。

活動記録・1 (2017年3月～2019年11月)



上:参加した子どもたちと清掃後に生物観察会を実施。(2019年6月16日)  
右上:デッキ清掃後、人目につきにくい北仲通北第一公園から第二公園へのプロムナードを清掃。(2018年1月21日)  
右下:デッキ清掃前にカヤックで水上に出て、浮いたゴミを拾い集めた。(2017年5月21日)



左上:水温も上がり、川に入っのデッキのブラシがけ。(2017年5月21日)  
左下:デッキ清掃後、参加した子供たちと行った生物観察会で見つけた蟹。(2017年4月16日)  
上:台風19号の影響で漂着した大量のごみをできる限り片付けた。(2019年10月20日)

活動記録・2 (2017年3月～2019年11月)



左上: 柵まで満ちた水に浸かったの滑り落とし。(2018年4月22日)

左下: まだ市庁舎建設が始まったばかりの夢ロードデッキ。(2017年11月19日)

上: 清掃後、Y.S.C.Cから参加した子どもたちを乗せてMegaSUPクルーズを実施。(2019年11月17日)



上: Y.S.C.Cの子どもたち30名が初参加。沢山のゴミを集められた。(2019年7月20日)

右上: SNSで知ったと言う近隣の方が初参加。子ども連れの方も多く有意義な清掃会に。(2019年10月20日)

右下: 北仲通北第一公園の階段下、垣根の中をゴミ拾い。(2019年7月20日)





小さな緑がつながく、人と人、人と自然、  
ここちいい水辺のために。

このような対話の中から生まれたアイデアの一つに、この場所に緑を増やしたいというものがありました。公園や広場のような公共の場は勝手にプランターなどを設置してはいけない場所です。しかし、行政に対応してもらおうではなく、もっと市民が主体となり手軽に水辺の環境を創ってゆくことはできないのでしょうか？そのような想いから生まれたのが「プランタバブリカ」です。ペットボトルや空き缶を使い、小さなハンガープランターを提案しました。この小さなプランターを夢ロードデッキ等の公共の場に設置できるような仕組みが将来的に生まれれば、場所への愛着や、人との対話も生まれ、面白いのではと考えました。様々なカルチャーが交錯するこの場所を、小さなプランターで「結束」できたら素晴らしいと思いませんか？そんな趣旨で、本活動のロゴマークは「本結び」をアレンジしているのです。

個人でも、企業でも、グループでも。  
水辺を愛する仲間を募集しています！

大岡川夢ロードデッキサポーターズは自主的な市民活動グループです。このウッドデッキをいつでも利用できるよう、今年から月1回の清掃活動を中心に緩やかなコミュニティーや意見交換の場が創られ始めました。公共空間の活用や河川利用にご興味のある方はぜひ「タイアップ」し、ここから「夢のような何か」を発信していきましょう。

JOIN US!



ご連絡は…

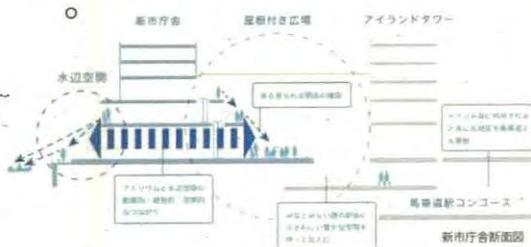
facebook 大岡川夢ロードデッキサポーターズ  
または… ✉ yumeroaddeck@gmail.com

## Ookagawa Yume Road Deck Supporters



大岡川夢ロードデッキサポーターズ

じつは：超ホットで話題の場所。



YOKOHAMA NEW CITY HALL DESIGN CONCEPT BOOKより引用

夢が広がる、水辺の未来。

「大岡川夢ロードデッキ」は2004年に神奈川県により、桜木町駅近くの大岡川河口に作られた広大なウッドデッキです。実は、このデッキは市民の船着場として、利用届けを提出すれば誰もが利用できる画期的な試みがされているのですが、完成以来10年以上も隣接地に施設がない、トイレも日陰もないという使い勝手の悪さからあまり利用されていません。しかし、今、このエリアは注目されつつあります。2019年に横浜市の庁舎がここに隣接して移転してくるのをご存知ですか？新市庁舎ができることにより、市民の憩いの場として、デッキ沿いに商業施設ができたり、水上交通のための駅となったり、SUPやカヤックをなどの拠点となったり…etc。市庁舎と夢ロードデッキが一体化し、一気に賑わいのある水辺空間になる可能性が出てきたのです。夢ロードデッキは、景観としての川と市庁舎、管理者としての大岡川(神奈川県管理)と港灣エリア(横浜市管理)、川を利用しているアクティビティ団体と舟運業者、市庁舎スペースを利用する市民、それぞれの「結束」も期待されています。様々なカルチャーが交錯する場として、今後、重要な役割を担っているのです。



水辺に集う、水辺で遊ぶ。

大岡川をこよなく愛する私たちは川との対話に欠かせないこのウッドデッキを以前より細々と利用してきました。上流から子供たちを乗せたボートを着岸させたり、デッキの清掃活動、水辺ピクニックの企画などを実施しました。2014年1月より川でのアクティビティを実践している団体が中心となり、月1回の清掃会を開催してきましたが、2015年6月からは河川利用をしていない一般参加者も巻き込み「大岡川夢ロードデッキサポーターズ」として活動を開始しています。この月に1回の清掃を介して、市民が集い、この場所への意見交換を行い、緩やかなコミュニティが形成されてきました。

みんなの水辺を楽しもう。

Planta Pública!

